

# 第 45 回東大 OLK 大会報告書

2023 年 7 月 28 日発行



# 目次

大会概要 .....	1
ご挨拶 .....	3
遭難者の発生に関する報告 .....	6
熊の目撃情報への対応に関する報告.....	12
調査依頼と回答に関する報告.....	17
フィニッシュコントロールの不調およびそれに係る DNF に関する報告.....	18
運営者バン事故に関する報告.....	18
会場・トレイン間輸送バスに関する報告 .....	19
池袋発着大会専用バスに関する報告.....	19
表彰式に関する報告 .....	20
運営者一覧.....	21

# 大会概要

- 正式名称 第45回東京大学オリエンテーリングクラブ大会
- 開催日 2023年6月11日(日)雨天決行・荒天中止
- 開催地 栃木県鹿沼市・日光市
- 会場 古峯神社臨時駐車場（青空会場）
- 主催  
東京大学オリエンテーリングクラブ（以下「東大OLK」と呼称）  
（東京・一橋・実践女子・津田塾・十文字学園女子・法政・お茶の水女子・明治・国際基督教・立教・東京工科各大学より構成）
- 大会役員  
大会責任者 溝端昭子（明治大学2021年度入学、JOA公認イベントディレクタ）  
運営責任者 河内絵里香（法政大学2021年度入学）  
競技責任者・コース設定者 久保木航（東京大学2021年度入学）  
渉外責任者 佐藤諒平（東京大学2021年度入学）  
調査責任者 岸隼平（東京大学2021年度入学）  
作図責任者 遠藤陽太（東京大学2021年度入学）  
イベントアドバイザー 田中悠（長野県協会、慶應義塾大学2013年度入学）
- 後援  
鹿沼市  
鹿沼市教育委員会  
鹿沼市観光協会  
日光市  
日光市教育委員会  
日本学生オリエンテーリング連盟  
関東学生オリエンテーリング連盟  
東京都オリエンテーリング協会  
栃木県オリエンテーリング協会

- 協賛
    - O-Ajari
    - O-Support
    - SIGN
    - おこんにゃく茶屋
    - かぬま里山わいん
    - 鹿沼ひざつきフルーツプラザ
    - 株式会社エバニュー
    - 株式会社つけもの樋山
    - 株式会社ニチレイ
    - 小林酒店
    - 栄屋
    - サンワ工芸
    - 白石物産株式会社
    - 巴屋
    - 山いち
- (五十音順)

## ご挨拶

### ● 大会責任者 溝端昭子

この度は第45回東大OLK大会にご参加いただき、誠にありがとうございました。東大OLK大会は、第42回の縮小開催、第43回と第44回の中止とここ数年は本来の規模での開催がなかなか難しく、更に当日運営を経験した現役生はいないという状況でした。しかし、歴代の偉大なOBOGが紡いでくれた伝統に加え地元の方々や参加者の皆様からのご期待・ご支援もあり、当日の開催までこぎつけることができました。

大会当日はあいにくの雨でしたが、参加者の皆様の笑顔や充実した表情をたくさん見ることができ、多くの参加者に大会を楽しんでいただけたと思うと運営者一同大変喜ばしい限りです。

今回中心となって大会を運営した東大OLK44期は、東大OLK内でも非常に活発で個性の強い代として知られていますが、それゆえぶつかることも多く、団結して何かを進めるのは「奇跡だ」と言われていました。さらに、誰も「本当のOLK大会」を知らないため手探りで大会運営を進めた部分も多く、何度も何度も検討し、意見を主張し合い、夜遅くまで議論を重ねたことも少なくありませんでした。

そんな我々を最後まで支えたのは、一人一人の「東大OLK大会を途絶えさせたくない」「大会を成功させたい」という思いであったと、大会を終えた今、強く感じます。運営に当たって良い経験ばかりではなかったのが正直な所ですが、それでもこの第45回東大OLK大会は、私たちにしかできない、熱い気持ちやこだわりの詰まった大会でした。

一方、今大会は熊出没対応やフィニッシュユニットの故障、参加者の安全管理など、多くのトラブルがあり、全ての参加者に満足いただける大会とすることはできませんでした。特に安全管理の部分に関しては我々運営委員会だけではなく、広範囲での認識の甘さが浮き彫りになったのではないのでしょうか。この報告書が、東大OLK大会に限らず今後のオリエンテーリングの大会運営の役に立ち、運営者・参加者問わず大会における安全管理に関して今一度認識を改めるきっかけとなれば幸いです。

最後に、今大会に多大なるご支援・ご協力をいただいたすべての方々、そして東大OLK大会を楽しみにしてくださり、足元の悪い中ご参加いただいた多くの方々に感謝を申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

東大OLK大会は続きます。きっとこの先も、伝統を紡ぎ、新たな風を取り入れながら。今後とも東大OLK大会をよろしくお願いいたします。

## ● 競技責任者 久保木航

このたびは、第45回東大OLK大会にご参加いただき誠にありがとうございました。大会当日はスタート時刻の繰り下げや検索関連で対応が遅れ、参加者のみなさまには不安を感じさせてしまいました。トラブル対応については反省点も多々ありましたが、それでも本大会を楽しんでいただけたなら幸いです。

本大会では、古峯ヶ原という最高のトレインで本格的なロングコースを提供できるよう試行錯誤を重ねてまいりました。すべてのクラスについて議論を重ね、悩み抜いた末に出来たコースです。皆様いかがでしたでしょうか。あいにくの雨模様となりトレイン内のコンディションが悪化してしまっていたので、ぜひ晴れた日にまたお越しください。最後になりましたが、本大会の開催にご協力いただいた地元の方々、ご参加いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

今後も東大OLKならびに東大OLK大会をよろしくお願い致します。

## ● イベントアドバイザー 田中悠

この度は、第45回東大OLK大会にご参加頂きありがとうございました。当日はあいにくの天候となり、決して小さくはないトラブルがありましたが、大会を無事終えることができて、運営者一同、胸をなでおろしております。

本大会は、新型コロナウイルスによる大会延期・縮小・中止や、豚熱による大会中止を受け、3年ぶりの東大OLK大会となりました。加えて、直接大会運営に関わった経験のない学年が中心となって進めたことから、本大会は、まさに異例づくしの大会だったと言えます。このような中でも、より良い大会を提供するために、各々が自分に何ができるかを主体的に考え、行動し、時には本音でぶつかりあい、創り上げていった大会であったと感じます。

今回の拡大リメイクにより、足尾勝雲山、改め、古峯ヶ原は、旧範囲よりも様々な表情を持つ、さらに魅力的なトレインとなりました。走行可能度や視認性が良い中でも、全体的に難易度が高く、様々な技術を要求されるコースに苦戦された方も多いのではないのでしょうか。

無数の特徴物が存在し、表現の難しい地形が多い新規エリアについても、旧範囲を超えるクオリティで表現された作図。これは、調査責任者・作図責任者をはじめ、すべての調

査者の努力・熱意の賜物です。また、皆様に味わって頂いたエキサイティングなコースたちも、競技責任者・コースプランナーが細部までこだわり、試行錯誤を重ねた産物です。

競技面から運営面に視点を移すと、地元渉外・協賛等の下準備に始まり、大会プログラム等の細部に至るまで、幅広く・深いレベルで大会全般に関わり、先導して大会の方向性をまとめていった大会責任者。トレイン選定段階から数々の変更・苦労を経験し、地元・警察・消防関係等、各所との間を取り持った渉外責任者。700人規模の大会、かつ、会場・トレイン間が離れて通信手段も限られる中、参加者・運営者の最適動線や輸送計画を立案し、その高度なオペレーションを完遂した運営責任者。上述のメンバーを筆頭に、各々の真摯な取り組みが、“大会・競技会に不自由なく参加する”という、いわば参加者からしたら当たり前前の部分を支えていたと強く感じました。

また、個人的な話で恐縮ですが、私の運営経験上、本大会が最もバスを手配した大会となったのは言うまでもありませんし、運営において超過密のダイヤグラムが登場することは今後そうそうないと思います。参加者の皆様の中でも、会場にずらりと並んだバス(14台)に目を見張った方は少なくないはずです。こうした小ネタ(小さくありませんが)を挙げればきりがありません。私の知る範囲だけでも、非常に多くのこだわり、努力が詰まった、素晴らしい大会であったと自負しております。

半面、決して小さくはないトラブルがあり、参加者の皆様にご不便やご心配をお掛けした面も強く、大会コントローラーとして力不足を感じる点多々ありました。特に遭難の件に関しては、私自身、遭難リスクの想定が甘かった部分も否めません。(私を含めた)本大会の運営者に限らず、今後、すべての運営者・競技者が、大会の安全性について考え直す必要があると感じました。

このような課題はありましたが、参加者の皆様には、東大OLK大会に参加して良かった、この45回大会に参加して良かった、とっていただけたなら幸いです。そして、参加者の皆様に、本大会の運営者の熱意・想いが通じたのならば幸いです。

東大OLK大会は、今も昔も学生トップレベルの規模・運営を誇る大会であり、来年以降も無くてはならない大会として、きっと皆様をお迎えするはずです。来年も、是非、東大OLK大会にお越し頂ければ幸いです。

最後になりましたが、大会開催にあたりご支援頂きました協賛企業の皆様、そして多大なご協力を頂きました鹿沼市・日光市の皆様に心より感謝申し上げます。

## 遭難者の発生に関する報告

M20A に出走した参加者 1 名がフィニッシュ閉鎖になっても帰還せず、トレインから約 4km 離れた間藤駅付近の民家で保護されました。Twitter での拡散や情報提供にご協力いただいた方々には感謝申し上げます。ありがとうございました。

本報告書では遭難に当たっての経緯等について記載いたします。なお、遭難者は実名を公開していますが、本人への誹謗中傷等なさないようお願いいたします。

### 0.総括

- ・遭難者は、フィニッシュ閉鎖時刻に故意に従わなかった訳ではなく、現在位置を見失い、競技エリアへの復帰ができなかった為、結果的に下山する方向へと足を進めた。 -- 1 項に記載
- ・本大会では、遭難に対する当日対応として主に以下のことを行った。 -- 2 項に記載  
この内容に問題はなかったと考える。
  - ・撤収者および搜索者を定刻(15:10)にトレインへ入れた
  - ・本大会のマニュアル通り、定刻 (17:00: 日没 2 時間前) になった時点で警察へ連絡した
  - ・二次遭難を避けるため、17:30 には搜索者(運営者)をトレイン内から撤収させた
- ・本大会では、遭難に対する事前対応にいくつか問題点があった。 -- 3 項に記載
  - ・トレイン北端に遭難防止用のテープを設置していなかった (問題点 1)
  - ・エスケープ方法(順路)の周知が不十分であった (問題点 2)
- ・本大会では、遭難を助長する影響を及ぼさなかったものの、運営者による搜索時にトレインと本部(会場)間で通信障害が発生し、運営者による搜索活動に支障を及ぼした。 -- 4 項に記載
- ・今回の遭難が運営者による搜索のみで解決せず、警察の出動を伴う規模になった要因として遭難者が競技エリア外に出てしまったことが挙げられる。  
したがって
  - ・トレイン北端に遭難防止用のテープを設置する
  - ・エスケープ方法(順路)を具体的に周知/注意喚起する  
(例: 競技エリア北端にて、北が低い急斜面が現れた場合は、南に引き返すことを周知)といった対策により、今回の大規模な遭難は回避できた可能性が高いと考える。



- ・また、マップアウトすることの危険性を運営者側が十分認識していなかったことも問題の一つとして挙げられる。 -- 3項に記載: <コース設定について>

地図レイアウト検討時、コース設定時には、競技性だけではなく「マップアウトを引き起こさないかどうか」という観点による点検も必須である。(安全性の観点による点検)

## 1.遭難者の動きについて

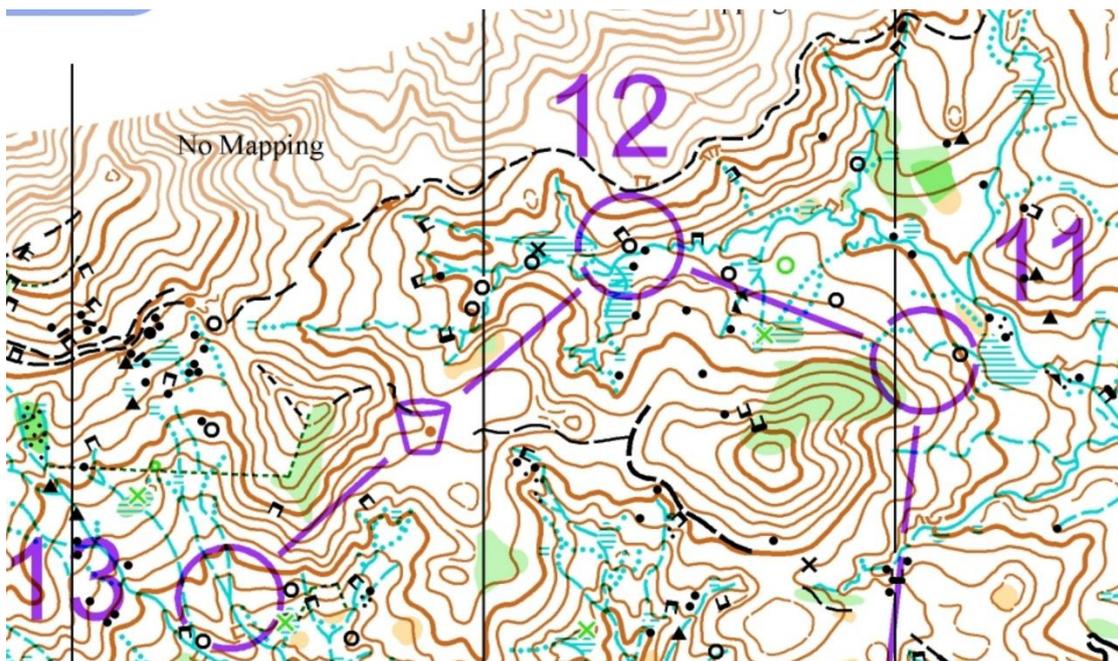


図 1 M20A コース図

- ・ M20A\_12 番→13 番のレッグにて、誤って 12 番コントロールの北西の鞍部を北側に進み、No Mapping エリアに侵入した。(本人聞き取り、および、GPS ログより。以下同様)
- ・ 現在位置が分からなくなり、暫くはマップアウトしていることも気が付かなかったため、マップ外の北向きの急斜面に出てしまい、競技エリア内への復帰が困難となった。
- ・ フィニッシュ閉鎖時刻は把握していたが、急斜面に囲まれて動きようがない状況もあり、沢底(下山する方向)へ向かってしまった。  
(※12 番コントロールの前までで大きなミスをしていたことも相俟って、冷静な判断をすることが難しい状況にあった)
- ・ 沢底へ向かっていく過程で(図 2 のテレイン北側方向)、林道を発見し、その林道を下っていった結果、間藤駅付近の集落に辿り着いた。(図 2 の本人発見地点)

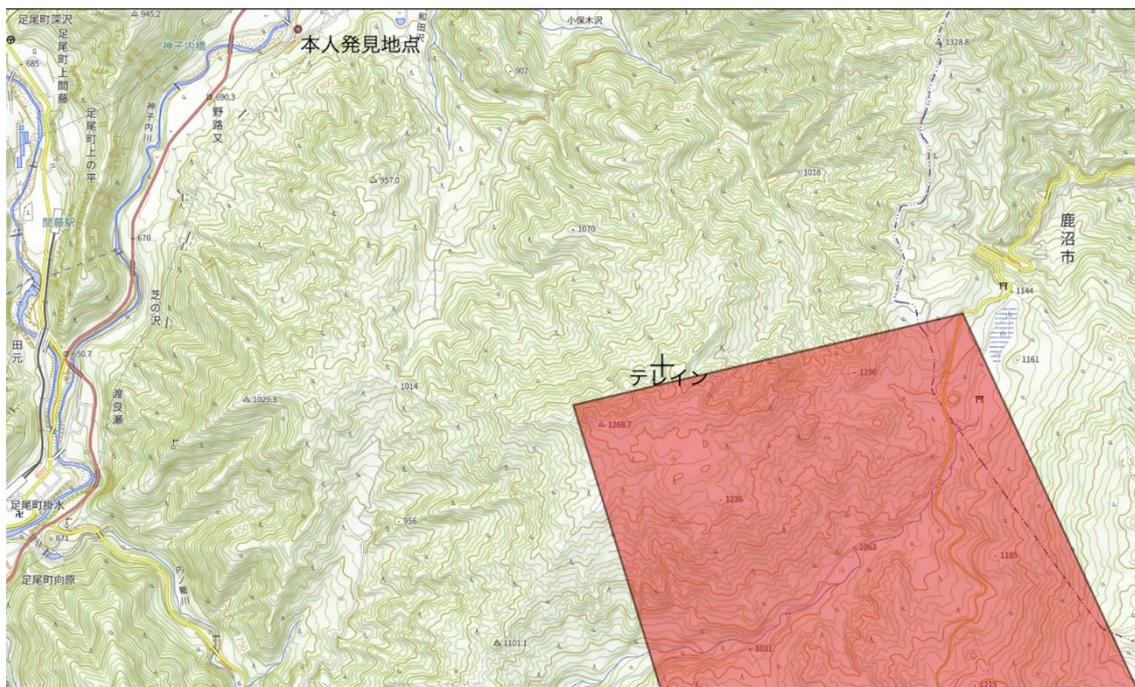


図2 本人発見地点(地理院地図を加工して使用)

## 2.未帰還者(遭難)に対する運営者の当日対応(時系列順)

14:20 未帰還者リスト作成開始予定時刻。

テレイン内での通信トラブル(想定外)のため、作成に着手できず。--- 4項(※2)で記載

15:10 撤収者(兼 捜索者)を投入。(定刻通り)

本部-テレイン間の連絡経路確保のため、バックアップの通信拠点(県道)に人員を派遣。

15:20 フィニッシュ閉鎖(なお、この時点で既に本人は帰還が不可能なほどに遭難していた)

16:46 計センの記録上、未帰還者が残り1名となる。--- 4項(※3)で記載

17:00 警察に未帰還者の発生を報告

17:30 運営者の安全性のため、テレインから会場に撤収

18:04 当該競技者を保護した民家より、保護したとの連絡

## 3.未帰還(遭難)に対する運営者の事前対応

<コース設定について>

- ・コース設定の際、発生しうるミスを予測し、クラスに見合った難易度調整を行った。

- ・テレイン北部については、競技エリア内とマップ外で斜面の向きが明瞭に違い、マップ外は急峻な斜面が連続するため、仮にマップアウトしても直ちに気づけ、復帰できると考えていた。なお、試走の際に北側にマップアウトし、すぐに気が付いてマップ内に戻った事例があった。
- ・マップアウトが致命的な遭難に発展する可能性を考慮出来なかった為、比較的経験の浅い M20A クラスのコース設定においても、競技エリア境界至近のコントロールを使用する形となってしまった。

#### <地図レイアウト(作図)について>

- ・テレイン北部について地図の尾根沢が反転しやすい見目をしているが、等高線の描画範囲を増やしても全く解決しないこと、また尾根沢が逆転することによりマップアウトの可能性が上がる可能性はないとして一般的な描画範囲にとどめた。

#### <遭難防止用テープについて>

##### [遭難防止テープを設置した箇所]

- ・テレイン南西部は同じような斜面が連続し、テレイン西端の競技エリア境界に近づくレグがあったことから、マップアウトリスクを想定しており、EA 及び競技責任者との相談のもと黄色テープを連続的に設置した。

##### [遭難防止テープを設置しなかった箇所]

- ・上述の通り、テレイン北部は、競技エリア内とマップ外で斜面の向きが明瞭に違い、マップ外は急峻な斜面が連続するため、仮にマップアウトしても直ちに気づけ、復帰できると考えていた。そのため、遭難防止テープの設置を見送った。 --- 問題点 1

#### <エスケープ方法の周知について>

- ・今回は拡張される範囲が公開されていなかったこともあるが、テレイン北側のエスケープ方法の周知を行わなかったことは重大な問題点である。 --- 問題点 2
- ・競技エリア北部で北が低い急斜面が現れた場合は、マップアウトしている状態であり、南に引き返すよう周知すべきであった。(文字情報だけに留めず、地理院地図なども用いる)

## 4.運営者による検索時に発生した問題(未帰還リスト作成、および、未帰還者確定の遅延)

### <前提>

- ・本テレインでは大部分で電波が通じず、主に電波が通じる拠点は勝雲山駐車場(図 3★)および県道上の 2 箇所のみとなっている。(運営者による調査結果)

- ・競技時間帯では、テレイン内各拠点にトランシーバー(デジタル簡易無線機登録局対応型)を配置し、電波の通じる勝雲山駐車場(図 3★)を介して、本部(会場)と連絡していた。(図 3)
- ・捜索時間帯でも、勝雲山駐車場(図 3★)に通信ハブ機能を持たせ、捜索の取りまとめをすることにしていました。(図 3) また、迅速に未帰還者を確定するために、フィニッシュ閉鎖の1時間前より、勝雲山駐車場に常駐する捜索責任者が、フィニッシュ通過者及び計算センターの未帰還者を照合することにしていました。

#### <運営者による捜索時に発生した問題>

- ・14:20以降、勝雲山駐車場付近での電波不良(霧起因)により、勝雲山駐車場付近にてトランシーバーが使えなくなり、テレイン内で未帰還者リストの作成ができなくなった。--3項(※2)
- ・上記の対応として、15:10に県道上の通信可能地点にも運営者を派遣し、図4のような通信経路の構築を図ったが通信に難航した。結果的に計センでの結果を待つこととなり、未帰還者の確定がフィニッシュ閉鎖86分後(16:46)になってしまった。--3項(※3)
- ・捜索活動としては、同時刻(15:10)にコントロールの撤収を行う運営者をテレインに投入し(トランシーバー所持)、撤収と同時に未帰還者への声掛けを行った。
- ・携帯電波は悪天候時でも通じたこと、試験時(霧が出ていた)及び捜索直前までトランシーバーは通じており、電波不良の発生の予測は困難であった。
- ・テレインに駐在していた運営者バンやテレイン輸送バスなどを活用した通信体制のバックアップ体制も講じておくべきであった。

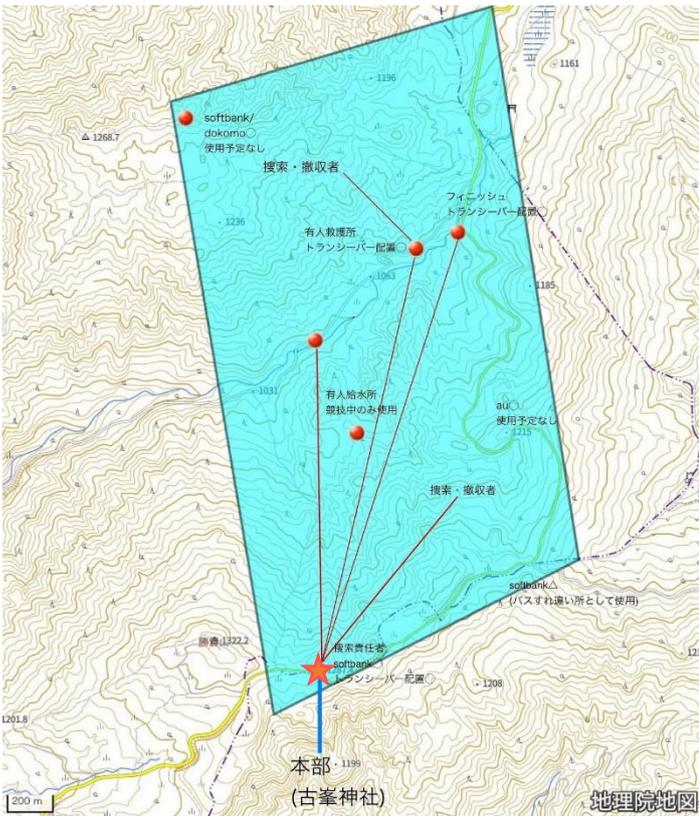


図3 通信経路(当初想定)

注：地理院地図を加工して使用。

★トレイン内通信のハブ拠点

赤実線はトランシーバー、青実線は携帯電波による通信を示す。

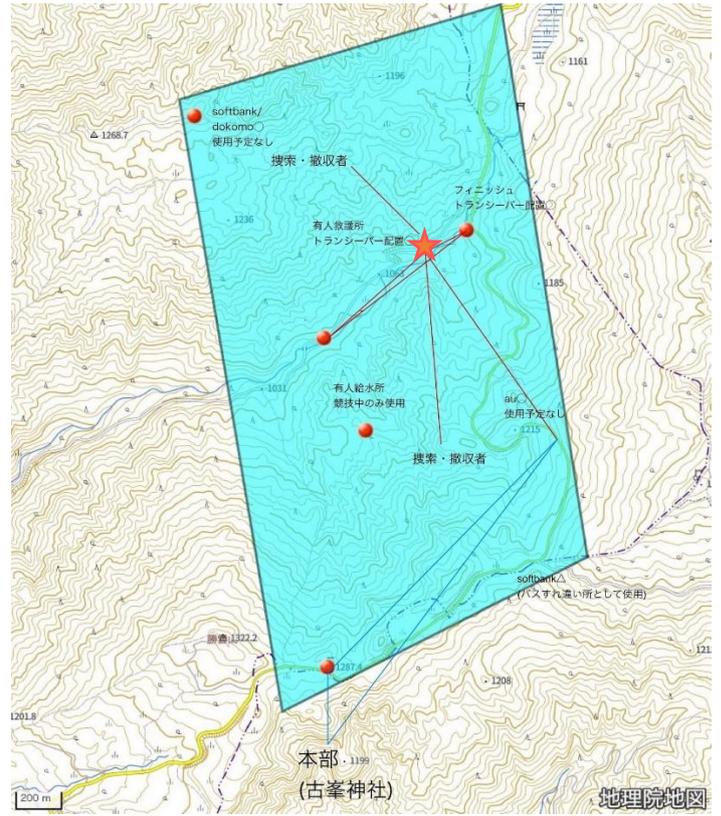


図4 捜索時の実際の通信状況(通信は難航)

捜索責任者 岸隼平

## 熊の目撃情報への対応に関する報告

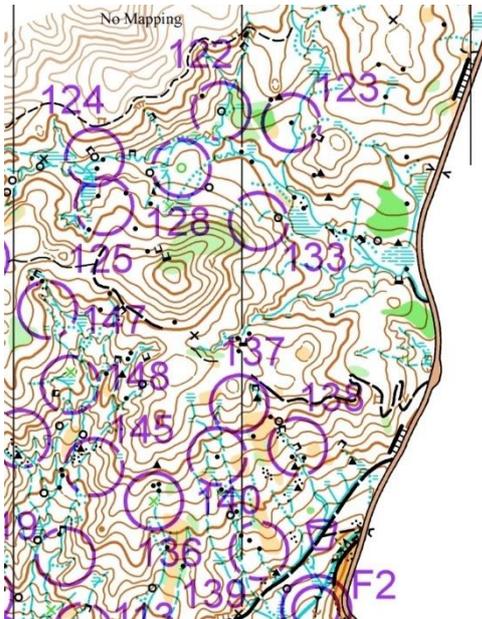
本大会では熊の目撃情報がありました。当日の運営者側の対応は下記時系列をご参照いただき、詳細は次のページよりご確認ください。

	救護所	スタート	バス	勝雲山駐車場（通信拠点）	本部
11:22	W20Aクラスの選手が「小熊を数頭見た」と救護所に来る。137番コントロールから西に向かっていたと伝える。				
	競技者が周辺にいるため危険と考え、本部の判断を待たず周辺の競技者の競技続行を阻止した。	スタートを止めるよう、救護所から連絡を受ける。			
		救護所独断だったが、スタート止める判断をする。			
11:24					会場を経由し、熊出没情報が伝わる。対応を協議
11:25		スタートを止める。参加者には「熊の目撃情報があった」と伝える			
11:29				137番コントロール近く、小熊確認、北西から西へ向かったという情報を本部に伝える	
11:36					救護所が周辺競技者を止めているという情報が入る
11:37				右記内容を ・救護所パート ・スタートパート ・バスパート の3か所に伝達	続報や詳細が入らないため熊だと判断するに足らず、熊の目撃者が3人以上でなければ中止にならないという判断で続行を指示。勝雲山駐車場に報告
11:38				右記内容を救護所に伝達	救護所に対して止められた選手のゼッケン番号を控えるよう指示
11:43	本部より続行の指示を受け、その場にいた選手を一斉にスタートさせる。				
	止めた選手のゼッケン番号を控える				
11:48		スタート再開のアナウンス			
11:51			スタートを遅らせている旨だけ伝え、参加者をバスに乗せる		
11:53					スケジュールの都合でフィニッシュ閉鎖時刻を変えない判断をする
11:55		スタートを再開			
12:36					熊鈴の貸し出しが足りなかったため、熊鈴不携帯の競技者の出走は任意と指示

● 目撃情報への対応

<救護所>

救護所に競技者が「137 番コントロール近くに小熊を複数確認。北西から西に向かった」と伝える。救護所は本部に相談せず特例措置として周辺競技者の競技を中断させた。スタートへはスタートの中断を要請、本部へはその後の対応を仰いだ。



137 番コントロール周辺の地図

<スタート>

救護所から「熊の目撃情報あり、競技者のスタートを中断させる」と要請され、スタート内で相談したうえで中断させる。本部ではなく救護所の判断だったが、救護所の要請により本部の判断を待たずに中断させた。その後本部からの判断が届き、「見間違いの可能性が高い」として訂正のアナウンスを行い、スタートを再開した。

<本部>

勝雲山駐車場から

「重要 11:20 分ごろ 137 ポ近く 小熊確認 北西から西へ向かったとのこと  
救護所では競技者を止めている」

という情報が入る。その後本部内で話し合いを行った。

・本部としては事前に熊の目撃情報発生時の対応をケース①から⑤まで考えており、今回はケース②に該当したため、競技を続行する判断を下した(以下で詳述)。

・なお、この判断基準を本部と救護所間でうまく事前共有できておらず、救護所パートの初動が本部の認識とずれてしまった。

以下、本部作成の中止判断から一部抜粋、改変

#### ケース①

- ・「競技範囲内の」別の場所にいた 3 人以上からの目撃情報がある（別の場所、というのは見間違いの際、興奮した 2、3 人が一緒に見間違いをする可能性があるため）
- ・対人の被害が報告されている
- ・熊が興奮している
- ・熊が競技エリア中心に向かった

上記の場合は 1 つでも当てはまれば多数の参加者に危険が及ぶので救護所、フィニッシュ、スタートに呼びかけてすぐに中止とする。

#### ケース②

- ・1 人からの目撃情報がある（競技エリア問わず）

上記の場合は情報の信憑性を確認するため、複数人から目撃情報が出るまで様子を見る。目撃者からは目撃場所や色、大きさ、熊の様子など聞き取りを行ったうえで競技は中断しない。

#### ケース③

- ・別の場所にいた 2 人以上からの目撃情報がある
- ・熊が競技エリアの中心に向かった

上記の場合は参加者に影響も及ぶ可能性が高いので、救護所やフィニッシュ、スタートに呼びかけて中止とする。

#### ケース④

- ・別の場所にいた 2 人からの目撃情報がある
- ・2 人の目撃情報以降何もない、競技エリア外で見た、目撃情報が曖昧、競技エリアから離れていったなど、競技エリア内に熊がいる可能性が低い

上記の場合は、熊が競技エリアから外れた場合も考えられるので、競技エリア内にいるのが競技時間をオーバーしている選手のみになり次第、フィニッシュ閉鎖前であってもすぐに捜索を開始する（ケース⑤に移行）

※ケース④では 2 人の目撃情報の信憑性や、目撃情報からの危険性がそこまで高くなく、参加者全体への危険性がそこまで高くない状況を想定している。

#### ケース⑤

- ・2 人からの目撃情報がある（競技エリア問わず）



・競技エリア内にいるのが競技時間をオーバーしている選手のみ

以上の場合、競技時間をオーバーした選手が競技エリア外に出て被害に遭う可能性が高いので、フィニッシュ閉鎖前でも捜索を開始する。

以上のことから、目撃者が 2 名以下の場合、ケース③を除いて競技を続行させる方針であった。

今回運営側に届けられた目撃情報はケース②に該当する。

調査期間及び準備期間での運営者による熊の目撃情報は都沢林道の南側のみであり、また、都沢林道の北側では猿の群れが頻繁に見られたので、猿の可能性も否定できないと判断した。

137 番コントロールの北西から西、つまり競技エリア内に向かった、という情報後、他の目撃情報が運営側に届けられなかった。競技エリア内に向かったのであれば、他の目撃情報も入ってくるはずである。

以上のことから熊の可能性は低いという結論になり、スタート及び救護所に競技続行を指示した。

また、フィニッシュ閉鎖の延長に関しては日没時間の都合など捜索に支障が出るため、行わないとした。

#### ● その後の対応

<救護所>

競技を中断させた競技者のゼッケン番号と順番を書き留め、競技を続行させた。

<スタート>

30 分遅れでスタートを再開させた。この際、フィニッシュ閉鎖に変更がないこともアナウンスした。

#### ● 参加者の皆様へのお詫び

本大会では、本部及び各パートの意思疎通がうまくできておらず、熊の目撃情報にあたっての初期対応が曖昧になってしまい、参加者の皆様にはご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。また、対応を協議する際や各パートへの伝達に時間がかかった結果、スタート地区で参加者の皆様に長い間お待たせすることとなってしまいました。雨の中、ストレスのかかる環境だったことと存じます。大変申し訳ございませんでした。

今回の対応ではフィニッシュ閉鎖をスタート時刻の繰り下げに準じて変えなかったため、競技時間が十分確保できなかった方も多くいらっしゃいました。本大会を楽しみにされていた皆様に充分競技を楽しんでいただくことができず、非常にご迷惑をおかけしてしまいましたが、それにも関わらず多くの方がフィニッシュ閉鎖時刻や競技時間を守り、競技を中断してくださりました。

皆様にイレギュラーな対応を強いてしまった中ではありますが、運営へのご理解・ご協力をいただいたことに深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

大会本部役員一同

## 調査依頼と回答に関する報告

本大会では1件の調査依頼がありました。

- ・調査依頼内容

クマ目撃情報により競技を一時中断されたことについての対応への調査依頼

- ・回答

参加者からクマの目撃情報を受けた救護所の運営者が、クマがいたとされる場所を通りそうな参加者を22分間にわたって引き止めた。Lapcenterの結果を確認したところ、表彰対象となる選手の順位に著しく影響を与えたと判断した北東 Ms, MF, W20A クラスを競技不成立とする。

回答後に提訴は行われませんでした。

競技責任者 久保木航

## フィニッシュコントロールの不調およびそれに係る DNF に関する報告

当日、2つあるフィニッシュコントロールのうち1つが不調となり、対象のフィニッシュコントロールをパンチされた方が会場にて DNF となる問題が生じました。DNF 対象者は約 30 名にのぼり、これが原因で

対象者に当日中にタイムをお知らせできない

表彰対象者確定に時間がかかり表彰式に混乱をもたらす

成績公開が大幅に遅れる

等の問題が生じました。

こちらの不手際で参加者の皆様にご迷惑をおかけしたこと、この場を借りてお詫び申し上げます。以下に競技開始以降にフィニッシュコントロール不調を確認することとなった原因を報告いたします。

本大会では前日及び当日朝に主にユニットの作動確認を目的としたポスト確認を行いました。前日及び当日朝のポスト確認時にはユニット不調を発見できませんでした。発見できなかった理由としては、当日朝の動作確認方法に不備があったためです。本来ダブルユニットの動作確認は E カードを 2 枚用意し、それぞれの読み取り可否を確認するものですが、本大会ではダブルユニットであったフィニッシュの動作確認を E カード 1 枚で行いました。これは Emit の仕様上、片方のユニットが不調であっても把握できない確認方法でありました。今後の大会運営では同じ失敗がないよう努めてまいります。

計センパートチーフ 小島優唯

## 運営者バン事故に関する報告

当日 13 時ごろ、救護所前を走行中の運営者バンが脱輪したため走行不可能となりました。13 時ごろに救護所付近を走行した競技者にはご迷惑をおかけしてしまい、申し訳ございませんでした。

運営責任者 河内絵里香

## 会場・テレイン間輸送バスに関する報告

本大会では、スタート地区近くへ向かうバスが途中で競技者の通るルートおよびフィニッシュ付近を通るため、競技の公平性担保の観点よりバスのカーテンの閉め切りおよびバスのフロントガラスと客室の間への仕切りの設置を行いました。

しかし、「外の景色が見えないためにバス酔いした」「フロントガラスの仕切りが外れていた」など、配慮不足・準備不足によるトラブルが起きてしまいました。参加者の皆様への配慮が足りず、また準備不足で混乱を招いてしまい、大変ご迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。

今後はバスの運行経路と競技者の通過ルートを極力被せない、やむを得ず運行経路と競技者のルートが被ったとしても目隠しは必須としないなど、今回のトラブルを充分引き継ぎ、再発防止に努めてまいります。

バスパートチーフ 折橋旺

## 池袋発着大会専用バスに関する報告

本大会専用バスの会場発時刻は16時を予定しておりました。しかし、熊の目撃情報を受けたスタート時刻の繰り下げにより、多くの方が予定時刻までに帰還できていなかったため、バスの出発が予定より30分程度遅延しました。トラブルの想定が甘かったためにバスの遅れを広げてしまい、参加者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。

バスの運行にあたっては、事前に余裕のあるスケジュールを組むと共に、様々なトラブルを事前に想定しておくことでトラブルの影響を最小限に抑えることが求められことを次回以降にも引き継いでまいります。

バスパートチーフ 折橋旺

## 表彰式のトラブルに関する報告

表彰式は当初 14 時からと 15 時からの二部制を予定しており、プログラムにもその様に記載いたしました。しかし、当日はスタート時刻の繰り下げ、フィニッシュユニットの故障、一部クラスの不成立により、多くのクラスの成績が確定するのが遅くなりました。急遽予定より 1 時間遅い 16 時から確定したクラスのみ表彰をするという形を取りましたが、大会バスや路線バスのダイヤもあり、表彰式に参加できない方が非常に多くなってしまいました。また、慌ただしさに加え表彰式時点で不確定のクラスも多く、表彰対象者を盛大にお祝いすることができませんでした。

表彰対象者の方で景品をお渡しできなかった方には、賞状と景品を郵送いたしました。直接お渡しすることができず、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

大会責任者：溝端昭子、演出パートチーフ:三井健世

## 運営者一覧

大会責任者	溝端昭子
運営責任者	河内絵里香
競技責任者・コース設定者	久保木航
渉外責任者	佐藤諒平
作図責任者	遠藤陽太
調査責任者	岸隼平
イベントアドバイザー	田中悠
渉外責任者補佐/Web 責任者	内木睦
作図責任者補佐/会場パートチーフ	平田千畝
調査責任者補佐/演出パートチーフ	三井健世
会計責任者/エントリー責任者	長谷部倫太
広報責任者/競技者救護パートチーフ	細野泉
資材責任者	佐藤優太郎
スタートパートチーフ	小野慶真
フィニッシュパートチーフ	橋村ひな
計センパートチーフ/ 大会公式キャラクター・ロゴ・Tシャツ制作	小島優唯
バスパートチーフ	折橋旺
交通パートチーフ	園部仁士

### ● パート別(当日運営者)

#### 本部

河内絵里香、久保木航、佐藤諒平、溝端昭子、田中悠

#### 会場

◎平田千畝、●山中望、公森達郎、三井健世

#### バス

◎折橋旺、●本間皓大、小林聖矢、新井悠仁、栗田稜也、山口颯大、鈴木耀太

#### スタート

◎小野慶真、●松井俊輔、綾野拓全、小川亮太郎、小野寺悠太、渡辺陽太、遠藤陽太、

一条理央、宮田鈴子、吉田聖悟、和田向日葵、宇田陽介、田中志歩

フィニッシュ

◎橋村ひな、●兼子照実、藤井宜之、伊藤崇仁、砂田優萌子、関和小菊、丹治聖陽、  
吉田晃平、梶本和、久米慧

競技者救護（救護所、有人給水所）

◎細野泉、●井村真岳、柏田芳樹、中西悠太、福田有紗、佐野勇仁

計セン

◎小島優唯、●遠藤浩明、加賀萌起、有本寧羽、泉浦旭秀、奥村尚史

駐車場（参加者駐車場、勝雲山駐車場＜通信拠点＞）

◎園部仁士、●佐々木奏太郎、松塚乃愛、内木睦、岸隼平、石川翔太、木戸友仁

ドライバー

加賀谷湧、佐藤優太郎、弓田和生

◎パートチーフ ●サブチーフ

協力者

栗本美緒、根本夏林、森川周、河野隼司、藤原悠平、藤澤達也

第 45 回東大 OLK 大会報告書 終わり